

## 第7回 九州圏広域地方計画有識者会議(令和6年11月8日開催) 議事概要

### ■議事 (1) 中間とりまとめの構成について

- 前回までは中間とりまとめ(案)をお示しして議論を進めて頂いたが、新たな社会資本整備重点計画や交通政策基本計画の検討状況、南海トラフ巨大地震対策WG、国土審議会推進部会専門委員会、「新しい地方経済・生活環境創生本部」の動向等を踏まえ、施策等の内容を精査する必要が生じたことから、「中間とりまとめ素案」と「広域連携プロジェクト検討状況」の2つに分けて公表することとした。「中間とりまとめ素案」では第4部広域連携プロジェクトについて7つの各プロジェクトの概要のみ記載している。広域連携プロジェクトの現時点での検討状況は、「広域連携プロジェクト検討状況」に記載している。なお、これまでと記載内容が変わるものではない。【事務局】

### ■議事 (2) 中間とりまとめ素案・広域連携プロジェクト検討状況について

- 九州の将来像の副題について、「世界が憧れる」を見直したとのことだが、本文に「世界からの憧れ」とある。「国内だけでなく世界に誇れる」に修正するのか、そのまま残すのか。
  - ⇒事前に事務局から相談を受けて、憧れるは相手が主語であるため、自分たちが主語となる、「誇れる」にした方が良いのではと提案した。「誇れる」に統一という意見でいいか。
  - ⇒統一をお願いしたい。
  - ⇒修正する。【事務局】
- 有識者会議の進め方として、当初より委員の専門的な意見をもって、中間とりまとめ素案、広域連携プロジェクト検討状況が構成されているが、基本が抜け落ちたり、弱かったりしているかもしれないとの懸念がある。中間とりまとめ素案、広域連携プロジェクト検討状況公表後でも構わないが、引き続き確認と修正をお願いする。
  - ⇒今まで断片的に議論したものを積み上げて作成されているため、抜けや弱い部分が見えてきたのではと感じる。それぞれ専門の方が未来形で話されると、最新のところに意識が行きがちとなり、根幹部分の記載が十分であったかという視点は再度持つ必要がある。公表までに修正できることと、できないことを見極めながら、事務局で作業を進めていただきたい。
  - ⇒承知した。【事務局】
- 現状と課題から、広域連携プロジェクトの施策へのロジックが不十分。この資料だけでは、九州圏の人が理解できても、その他の人が理解できないような内容になりかねない。ロジックの確認や自己完結的に理解できるように工夫してほしい。
  - ⇒現状と課題の構成について、現在は課題の記載が多いため現状の地域力や魅力をどう発展させていくべきかが、分かりづらい書きぶりになっているのではないか。二地域居住の事例を好事例として紹介しているが、一方でうまくいかない例も多くあると思う。地元住民の方とうまく付き合っていくために必要な事であるとかソフト面も含め、これまでの地元の生活や文化と二地域居住などの新たな取り組みを繋げる記載をしてほしい。
  - ⇒ロジックでは、課題と広域連携プロジェクトの関係が飛躍している可能性もあり、間が抜けて

いるところもあると思う。現状と課題については、問題の方に意識が向いている。伸ばすべきところと解決すべきところがどのように広域連携プロジェクトに繋がっているかのロジックも確認が必要である。

⇒今後、本計画策定に向け検討を進める。【事務局】

○将来像の副題「シン・九州」に疑問を持っていたところ、本日新たに「個性・魅力にあふれ、ひとつにまとまり発展し、誇れる九州」との修正案が提示されたが、九州を他圏域に変えても使えるようなものとなっており、九州らしさや固有の魅力がわからない文章になっている。

⇒九州らしさを表現することには、事務局も苦慮しており、引き続き検討するが有識者からもぜひ良い文章を提案していただきたい。【事務局】

○中間とりまとめ(素案)の概要版は、本文から何を抜き出して記載するが肝要で、現状と課題は将来像に繋がるものを記載すべき。また目標の記載内容は本文とあわせるべき。

⇒中間とりまとめ(素案)の概要版は、公表されるのか。

⇒中間とりまとめ素案とあわせて公表する予定。ご指摘のとおり修正する。【事務局】

○将来像の副題「個性・魅力にあふれ、ひとつにまとまり発展し、誇れる九州」について、ひとつにまとまりというと、福岡に集中していることを想起する。広域連携プロジェクトを見るとシームレスに結ぶことを想定しているのだろうが、誤解を招く表現ではないかと懸念した。「ひとつにまとまり」はいい面もあるが、コミュニティの多様性や包摂性からはひとつの価値観にまとめられるイメージがある。

⇒ご指摘のように捉えられる可能性もあるので、事務局にて再度検討してほしい。

⇒「ひとつにまとまり」を九州の特徴として表現しているが、委員のご指摘も踏まえ、再検討する。

【事務局】

○現状・課題に関して説得力のある見せ方としてネガティブだけでなくポジティブ面も両面持ち合わせた九州として「成長性と潜在能力に富むと同時にリスクも内包する九州」などと1行目に記載し、それを踏まえた上で、将来像に繋げる記載したとした方がわかりやすいのではないかと。

⇒ご意見を踏まえ改めて検討する。【事務局】

○能登半島地震を受けて、半島地域をどのように位置づけていくのか。地震への対応だけでなく、半島振興を含めて基盤整備が必要なのではないか。PJ5に半島を含めることも検討してほしい。

⇒九州は離島・半島・中山間地域が特徴であり、半島を含めて記載した方がよい。

⇒委員の意見を踏まえ修正する。【事務局】

○有人国境離島について、国境と書くと国防をイメージしてしまう。有人離島を維持し、いかに地域生活圏を形成するかということだと思う。経済圏、観光圏を含め検討できるかもしれない。

⇒即地的に何ができるか議論したい。【事務局】

○二地域居住について、全国事例や九州事例を見ながら、今後PJで検討してほしい。

⇒承知した。【事務局】

○「能登半島地震を受けて」について、南海トラフ巨大地震を意識して東九州への対応を考えられていると思うが、様々な火山災害なども想定して多様な対応が必要であることを踏まえる必要が

ある。

⇒承知した。【事務局】

○若者意見について、令和6年12月6日にセミナーが開催される予定である。若い方々が登壇されて、自分たちの活動を紹介していただく。計画に反映していければと考えている。

⇒意見を聞く側も若者へのアプローチ方法を悩んでいる。意見を計画に盛り込みたいということは理解できるが、一方で聞かれる側がこの計画へ意見を発することが、自分達の生活にどう影響するのかイメージしにくい。セミナーだけではなくコミュニケーションももっと必要であり、過去の計画でどのように私たちの生活が変わってきたかを同時に伝えないと、この計画に意見を求めてもなかなか声は上がらないだろうと考えている。

○本日の議論を受けて、12月までにやるべきことと、12月以降も継続して検討しなければならない事項が確認できた。本日欠席をされた委員には、事務局から説明をお願いしたい。

## 2. 閉会